

インターネットを活用したネットワークづくり

志學館中等部高等部教諭（インターネット編集長）

梶原末廣

E-mail kanoyu@po.synapse.ne.jp

1. はじめに

いよいよ新世紀の幕開け。世界はそして日本は、世紀末の世に似て、私たちは驚くという、正常な感覚まで麻痺したかのような時代を生きています。昨年12/29の朝日新聞で村上龍氏は「共有する価値観なき時代」といい、＜破壊から脱出へ＞と記しています。破壊や自滅に意味がないとも書いています。受け取り方によって「はじめて個人が自分らしい生き方ができる時代が到来している」とも読めます。

2. 未来教育プロジェクト（活動・成果など）

「はじめに」は、今年1月に私が編集・発行したメールマガジンからの転載です。本誌編集者から原稿依頼があった時に浮かんだのは「サーカス」です。夏目漱石の愛弟子「内田百閒」の作品に「サーカス」の世界を彷彿とさせるものがあつたようですが、まさにいま私自身が活動していることは、どこかそれに似ているようです。例えていえば、『「広場」に集まってもらって、その中心で次から次に、ドキドキはらはらさせるようなことが展開される。』少しでも、人に夢や希望が与えられたら、とっても嬉しいです。

私は次に紹介するいくつかの研究会に所属しています。

まずは、「鹿児島県マルチメディア教育研究会」です。

<http://www2.synapse.ne.jp/~kamaken/index.html>

教職員および有志で組織した自主研究会です。マルチメディア等を活用した教育実践、また、コンピューター研修などについて、真剣かつユニークな意見が飛び交う中で和気藹々とやっています。本研究会の最大のメリットは、人の輪が充実すること、情熱エネルギーをもらえることです。

毎月1回の情報交換会にあなたも参加しませんか。

創設8年をむかえる県内では、堅実で活発な組織です。私は5年目から参加して活動しています。月例会はもとより、年1回の研究大会では、研究や活動状況の発表や各種講演会を実施しています。会員の相互の連携も抜群で、最近の成果としては、「県内データベース」（CD版）をあげたいです。日頃の研究や実践が、それぞれに還元され、個々のスキルアップと同時に、県内外の先生方への影響力も大きいと確信しています。

次に、「Sie-ML」を紹介します。

<http://www-jc.edu.kagoshima-u.ac.jp/sie-ml/sie-ml.htm>

「鹿児島大学教育学部附属教育実践研究指導センター」の園屋教授等を代表者とするメーリングリストへの参加です。

Sie-ML（シー・メーリングリスト）について

(1) 「Sie-ML」とは？

インターネット上のメーリングリスト（以下「ML」）で、情報教育に関心のある方が、自由に情報交換や意見交換などを行うために設けられたものです。ただし、書き込み内容は、情報教育に限られてはいません。現在、情報教育関連以外のさまざまな話題も交換されています。

(2) 「Sie-ML」の由来は？

このMLの略称は「Sie」となっていますが、School Informatics Education「学校での情報教育」の頭文字です。

Sie シー ということから、See見る Sea海に通じます。これからの教師や子供たちは、インターネットを通して大「海」原に旅立ち、いろいろな世界を「見る」という意味を込めています(^_^)。なお、「School（学校）」とあります

が、学校での情報教育に限るものではありません。ここでは家庭や地域、一般社会などすべての場を学習の場、いわば「School」と考えています。

(3) 「Sie-ML」の会員は？

会員に特に資格はありません。だれでも入れます。現在(2001.6.18)、鹿児島県内外の学校、行政機関、企業に所属する方や、学生など、359名の会員が加入しています。

私にとって「Sie-ML」はネットワークの「学校」のような存在です。困ったこと、わからないことをメールで投稿すれば、即座に会員の誰かが回答して下さいます。教師だけではなく、多面的にまた弾力的に考えることができます。各種オフ会やセミナーや学習会も魅力的です。

私にとって前記の2つが、ネットワーク界の両親のような存在となっています。

次にネットワークの人的な方面を紹介します。

「鹿児島教師学研究会」は、1997年10月に鹿児島大学教育学部の講義教室で、第1回研究会を開催しました。

教師学(T.E.T Teacher Effectiveness Training)は、アメリカ臨床心理学者トマス・ゴードンが提唱する教師訓練の理論と方法です。ゴードンは、カール・ロジャースとシカゴ大学で同僚であった時期もありますが、ロジャースのカウンセリング理論と同じ立場で研究と実践を行い、1962年に親子関係を改善するためのトレーニングである「親業訓練 Parent Effectiveness Training」のプログラムを開発しました。そして、親業の基本的な方法と考え方を、学校場面および教師・生徒関係に応用したのが教師学です。

教室での「教授=学習」の時間を確保し、その質を高めるために、教師と生徒との間に人間的ふれあいを可能にするには、どうすればいいのか。今ここで、真摯な努力を地道に続ける教師のための学習会です。詳細は「鹿児島教師学研究会」WEBからどうぞ！

<http://www.synapse.ne.jp/~kanoyu/k-tet.html>

月例会を開催し、地道な活動を続けて4年になります。私が地元新聞社からの依頼で、「学校文化と対抗するもの」といった内容の記事を読んだ方が電話をくださって、加速度的に話がきまり、現在の恒常的な活動につながっています。私は現在この会の代表者を務めています。大阪の毎日放送と地元NHK鹿児島支局からの取材で、テレビ放映もされました。次の文章は、この研究会の活動がもとになって、昨年夏から霧島でセミナーを開催していますが、その関連記事です。

題して「霧島プロジェクトの試み」です。

① 日本の教育界が変わってきた(自分の経験も含めて)

「教育」については、誰でも一家言もっています。ここ数年教育について、ポジティブな発言を聞いたことがないです。だから悲観的に全ての事象を捉えていました。私の考えを根底から覆すような出来事が周辺で、また私自身の中で起こりはじめています。

まずは、六年前のインターネット世界への接近から、現在はその渦中にいます。四年前の夏、鹿児島教師学研究会を発足させ、月例会を開催して、教師達を中心に学習会を展開させています。二年前から鹿児島県マルチメディア教育研究会に参加し、前向きで積極的な教師との出会いで、毎月新鮮な刺激を受けています。

私は一介の教師であります。が、この数年来、自分の予測とは異なった人生を歩いています(一寸先は闇で当然のことではあるが)。まず、メールマガジンの発行です。「中・高校教師用ニュースマガジン」を週に三回発行しています。内容は、授業実践・研修報告・教育エッセイ・総合的な学習・保護者や企業人からの教育に関する提言・海外からの教育事情やその実践例・ポートフォリオ(→p.12)評価・プロジェクト学習・メディアリテラシー授業実践・各種セミナーの案内・研究者の論文発表など、さまざまです。メールマガジンは、新しい文化であり、その中で教育系のメールマガジンは、ようやく市民権を得ようとしています。コンピュータネットワークの発達で、学校や教育も大きく変化してきています。

私は更に、もう一誌「鈴木敏恵の未来教育インフォメーション」の編集をしています。未来教育デザイナーの鈴木敏恵さんの未来教育に関する、情報発信誌の編集をしています。前述二誌で3500名余の購読者です。このことは何を意味するのでしょうか。二誌の執筆者は30名を越えています。メールマガジンは購読が無料ですから、執筆者にも原稿料はないです。教育系メールマガジンの発行は個人が中心で、この数ヶ月間で、新聞社のメールマガジンが相次いで創刊されています。この現象は、今までにないことです。日本の教育界も緩やかに、あるいは加速度的に変化の兆しが見えています。

② 霧島プロジェクトの提案

ここでひとつの提案をします。

まず、「できるだけ多くの人の教育に関する思いを集め、みんなの力で実現」していくために、全てボランティアで活動していく「霧島プロジェクト」セミナーの開催です。私たちが目指しているのは、単にひとつのセミナーを実現すればいいということではなく、それを実現していく全過程（霧島プロジェクト）自体を、「未来教育」にふさわしいような、新しい試みとして実現していくことです。私たちが目指す「未来教育」を、「いま、ここ」において実現していくことです。そのための大前提として、霧島プロジェクトの全過程は公開され、全てのメンバーと共有されうるようにしておくことが必要であると考えます。そのために、現在進行中の「情報革命」（ITの急速な進展）を最大限に利用します。ホームページ、メーリングリストのフル活用やその他の技術で利用できるものはないでしょうか。霧島プロジェクトへの参加・関与はオープンにします。霧島プロジェクトの趣旨に賛同する人であれば、プロジェクトの一部であっても、その関与・協力を歓迎します。

次に霧島プロジェクトのポートフォリオを作ります。昨年の「霧島セミナー」のテーマが「ポートフォリオ」でした。今年の霧島プロジェクト全体のポートフォリオを同時進行で作っていきたいと思います。通常後者（普通の「セミナー」）は、何らかの学習目的が主体であるのに対して、前者（「霧島セミナー」）は、学習目的は半分にした

と私は考えています。そして後の半分を、教師同士の懇親、情報交換の場、また教師個人にとっての休息（いやし）の場、としていきたいです。普通の学習目的の「セミナー」は世間に多くあり、自分で学びたいところに出かけていけばいいのであって、私たちが屋上屋を重ねることはないように思います。いま教師にとって必要なのは、ゆっくり安心して考えられる場であり、利害関係なく自由に本音で話しあえる場ではないでしょうか。そのため今年は、「2泊3日のゆったりとしたプログラムとしたい。」「それにとまって学習目的の方も、多くをギュウギュウ詰め込むようなものでなく、ゆったりとしたものにしたい。」「もちろん学習内容は、本当に身につくようなできるだけ素晴らしいものにしたい。」ということです。

③ 霧島プロジェクトの特徴

学習内容・講師をどうするか。これまでのセミナーの多くは講師と聴衆とが、先生と生徒という関係に明確に分かれているように思います。しかし現在進展している「情報革命」の世界では、「わたし教える人＝先生」と「わたし習う人＝生徒」というようなものとは、異なった関係が出てきています。即ち、わかっている人がわかっていることを、知らない人に無報酬で伝える、ということ。世界に無数にある内容豊かなホームページは、その例のひとつにすぎないです。

私たちが続けてきた鹿児島教師学研究会だって、一時的に、講師役を分担することはあっても、常に講師がきまっているというわけではないです。いわば「教えあい、学びあう」関係だと思えます。お金などは、他人に無償で与えると自分の持ち分がそれだけ減ってしまう、いわゆるゼロサム論理が成り立つ世界です。それに比して情報の世界では、情報を与えたからといって自分の持ち分が減ることはないです。むしろ「教えることは学ぶこと」であったり、互いに教えあうことによって、自分の情報量は逆に増えてくる。現代はいわば過渡期であって、この論理が何にでも通用するなどとは思ってはいません。

しかし霧島セミナーでは、以上のことをも念頭に学習内容・講師を考えたいように思います。現段階では、例えば次のようなことを考えています。

- 1) 私たちの趣旨に賛同し無料、格安または安めの講師料で来てくれる講師。
- 2) 豊かな内容とそれを伝える実力と学問的誠実さをもつ講師。
- 3) セミナー全体のプログラムについても相談できて、一緒にセミナーを作り上げる姿勢のある講師。

④ みなさんへ

プログラムをどうするか。構成的グループエンカウンターエクササイズをやるのは当然として、それ以外に、どういうことを入れていったらいいでしょうか。みなさんのお知恵を貸してください。現在予定されているテーマは、次の三つです。

- 1) ポートフォリオ（実践報告・発表）
- 2) SGE（構成的グループエンカウンター）
- 3) GWT（グループワークトレーニング）

以上の事を提案して、「第2回霧島セミナー」（霧島プロジェクト）の準備にとりかかりました。5回の準備会委員会と直前の準備会で、本年も参加者69名の霧島セミナーを開催いたしました。

◆「第2回霧島セミナー」(K-project)◆

～ここから見える未来教育～

テーマ：ポートフォリオ（実践報告・発表）
SGE（構成的グループエンカウンター）
GWT（グループワークトレーニング）
と き：2001年8月16日（木）～8月18日（土）
ところ：鹿児島県立霧島自然ふれあいセンター
〒899-6603 鹿児島県始良郡牧園町高千穂3617-1
Tel.0995-78-2815 Fax.0995-78-2858
対 象：すべての地球市民（教師・学生・保護者・企業人、等々）
人 数：約70名
参加費：9,800円（2泊3日、全食事・宿泊・懇親会費・資料代を含む）（1泊2日の部分参加は、6,800円）
主 催：霧島プロジェクト（鹿児島県教師学研究会を主体とした実行委員会）
運 営：すべてボランティアで行う

なお、機会がありましたら「第2回霧島セミナー」のご報告をさせていただきます。どうぞお楽しみに。

私は各種新聞・雑誌等に連載をもっています。時折思いもかけぬ原稿依頼があります。それは「私のウイルス顛末記」というものです。私が発行するメールマガジンに顛末記を書きました。それが編集者の目にとまり原稿依頼となったわけです。もちろん最初は躊躇しましたが、「災い転じて福となす」でみなさんの役に立つものであれば結構です、ということで引き受けました。マイナス要因を前向きに捉えたいのです。コンピュータネットワークに依存した生活者は、現在まだ少数派でしょう。が、それは遠いことではなく、実は目前に到来していることなのです。ぜひその事を想定して、読んでいただきたいと思って書いたものです。

ウイルスが時代を進化させていく

私はいくつかの教訓を得ています。「慢心です。用心していたのですが、やはり知人といえども添付ファイルは開かないことです。心に深くとめました。ネットワークのことはネットワークで解決、今回こそ、そのよさを実感した日はありません。感謝！感謝です！」

今回のウイルス顛末は、海外からのメールに添付されていたウイルスで、それをご本人が子どもさんにメールを出し、そしてMLを通してウイルスが感染した例です。私は学校では、情報ネットワークの管理者です。従って、自宅と学校は、同じネットワーク環境で構築しています。先生方に、朝の職員会で報告をし、喚起を促しました。幸い被害はなく、安堵の胸を撫で下ろしました。（もちろん、学校での端末に送信された私宛のメールは、全て駆除ファイルで撃退しました。）

人々が同じ事を踏襲するというのは、今まで自分がやってきたことを否定されるようだから、同じ事をどんどん拡大再生産していくことにより、人々は、仕事をこなしているようです。「ウイルスは進化していきます。」同じものを今まで通り無菌室の中でやっているのは、ダメなん

だと思います。本来はそれに対応した、強いものをつくるが必要なんです。でも「無菌室で生きるしかない人間」、現代人は哀れです。さまざまな刺激というのは、ウイルスなのです。ウイルスが時代を進化させていくのです。人間に寄生しながら。

私は、ネットワークや端末を使って仕事をしています。たぶん別の人生も充分可能なのですが、今の私には必要なツールです。端末が使えないと「翼をなくしたただの人」になってしまいます。「ただの人」も充分よいとわかってはいます。また人生も選択は可能です。でももう少し、私はこれに、この世界につき合ってみようと思っています（詳細は「パンティア5月号」学研をお読みください）。

さて、話題を転換し、「TV会議プロジェクト」の一部を紹介しましょう。

◆中・高校生が「日本の未来」を変える！
～主張は「勇気」…手段は「IT」～

みなさんは「勇気の日」という言葉を聞かれたことがありますか。

いまその言葉と実践活動が、少しずつ学校から社会へそして世界へ広がってきています。今回はその取り組みの一部を紹介します。昨年夏、八月に参議院主催で開かれた「2000年子ども国会」の論議をもとに、「いじめや少年犯罪のない明るい社会にするために『勇気の日』を作ろう」という子ども達の考えが主体になって、はじまったものです。いまその子ども達中心の運動が、広がりを見せています。

昨年子ども国会の直後に実施された、TV会議により「参議院報告会」（2000年子ども国会に参加した子ども達）が全国の五校を結んで中継があり、その時に私の勤務校の生徒（志學館中等部・高等部）も参加しました。そのTV会議報告会の時に、「勇気の日」を作ろうという提案がありました。その提案者の中心が、共愛学園中・高校（群馬県前橋市）の新聞部の生徒のみなさんです。新聞部のみなさんが毎日新聞

の学生新聞本部（東京都）を訪問し、積極的に具体的な取り組みをしていきたいということをお訴えました。その願いを記者の方々が受けて、「こねっと毎日学校電子新聞」や「毎日小中学生新聞」「毎日新聞社会面」等に、目的や活動等が紹介されました。

「勇気の日実現を目指して」2000年9月30日の共愛学園中・高校の学園祭では、同校生徒が、鹿児島市の志學館中等部、東京都江東区立深川四中の生徒らと「勇気の日」実現に向けて、インターネットで意見を交換、訪れた地域の人たちにも実現をお訴えました。

学園祭では、新聞委員会のコーナーに、夏の甲子園出場校に行った「勇気」についてのアンケート結果や、国内や海外から寄せられたメッセージなどを展示。インターネットの「勇気の日掲示板」を使った意見交換では、深川四中や志學館中等部から「みんなの勇気をみんなのために使おう」などの提案がありました。また、この運動には大人からも励ましが寄せられています。「中学生がこんなに一生懸命に、ひとつのことにむかっているのに驚きました。大人の私たちが勇気づけられました」と。

★☆☆「勇気の日実現ホームページ」☆☆★

<http://www.synapse.ne.jp/~kanoyu/yuuki/index.html>
「勇気の日実現」メールマガジンの登録・解除
「勇気の日実現」メーリングリスト登録

◆「初めの一歩・グローバルプロジェクト」

～9600キロ、太平洋を越えてクラスコミュニケーション～

2001年5月18日に、ワイオミング州の高校生（日本語選択コース）と鹿児島（志學館中高校生）との間でテレビ会議システムを使って、クラスコミュニケーションを体験しました。9600キロと16時間の時差を解決できたのは、CCDカメラとネットミーティング（TV会議ソフト）とインターネットの力です。

「おおおお？すごい！」「え、これ、日本からの映像？」「私の顔、日本側に映っているの？」「先生、しゃべっていい？」「Wow,

COOL!」「コンニチワ?!」子供たちの目が輝いています。コンピューターのモニターに映っている鹿児島の高校生の姿を、追いかけるその顔には、驚きと興奮が入りまじっています。次々と興味津々の生徒たちが、モニターの前に集まってきます（ワイオミング州の反応をメールで報告していただきました）。

「うおー!?!」「もう、映ってるの。こっちの声も聞こえてるの。」「ハイ!」「僕は〇〇の〇〇です。」「お名前は?」「何歳ですか?」で少し音声は聞き取りづらいのですが、双方のやりとりには支障はないようです。やったねー。黄金週間の準備も無駄ではなかった。漢字クイズあり、動物の鳴き声クイズあり、歌も交え、笑いあり、拍手喝采と授業時間が瞬く間に過ぎていきました。

前夜から緊張していた私は、夜にもなれば疲れていてもいいはずなのに、まだ興奮していて、頭がぐるぐる回っている感じでした。その間にも、テレビ会議がどんな風にカリキュラムに応用できるか、どんな可能性が広がるか、アイデアがぼんぼん出てきます。メール交換、メーリングリスト、自己紹介ウェブページ、そしてこのテレビ会議で、米国の生徒とのコミュニケーションの機会を増やして、やがては相互訪問、ホームステイと夢は膨らみます。

いくつかの反省点は、準備が成功の鍵を握るということでした。今回は準備不足のため、「生徒同士のリハーサルが1回もできなかったこと。」「本校生に十分な事前学習の時間が確保できなかったこと。」など、情報技術の面に大方の時間を費やしたための反省点です。

海外とのやりとりにテレビ会議を使うことは、まだまだ新しいことと捉えられていて、「おもしろそうだけど、不安が...」と思われる先生方も多いと思います。でも、そのおもしろさ、生徒へのポジティブなインパクトの大きさ、学びへの動機づけを考えると、ぜひぜひおすすめしたいと思います。もちろん、1回目から完璧にはいくのは難しいでしょうが、どうやってよりよいものにしていくか、といろいろ考えて、実行していくのも、すてきなチャレンジだと私は思います。

時折、講習会や研修会の講師を務めます。その事をご縁で新聞への連載となったりします。次は「新しい教育へ ポートフォリオをつくろう!」の第1回目として書いたものを紹介しましょう。

いま「学校」は新しい教育の胎動が起きています。「知」の鮮度を常に要求される時代となっています。授業も単に「知識」の伝達だけで終えることはできません。私たちに生涯学習の必要性がいや増すばかりです。ご縁がありまして、連載を担当します梶原末廣です。インターネットを活用してのネットワークづくりが、年来のテーマです。鹿児島県の私立中・高校学校で国語（国語情報学）を担当しています。2誌のメールマガジン（「鈴木敏恵の未来教育インフォメーション」・「中・高校教師用ニュースマガジン」：1月1日号に「未来教育を語る」鼎談記事掲載）の編集・発行と教育相談（教師学）やマルチメディア研究会での実践活動もしています。

今回は、昨年12月16日に「愛媛県立宇和島南高等学校」に「総合的な学習導入に向けてプロジェクト学習／ポートフォリオ評価」で、学校長以下全職員（70名）の研修会の講師として招聘され講演を実施してきました。その報告を中心に「ポートフォリオについて」お話しします。内容は次の通りです。

- 1) 自己紹介
- 2) プロジェクト学習／ポートフォリオ
- 3) 三者面談に生かす
- 4) 進学に生かす
- 5) 就職に生かす
- 6) 未来教育

1) については、今後お話の機会もありますので、今回は前述の部分のみとします。

2) について

「プロジェクト」とは、ある目的を果たすための「構想」や「計画全般」。

<以下略>

一般的な「ポートフォリオ」の意味

「語源的には...」紙ばさみ、バインダー、ファイ

ルというような意味。

<以下略>

「教育ポートフォリオ」概要

・テストなど「結果」のみでなく、学習者の「プロセス全体」を評価の対象とする。

<以下略>

今回の最後に次のメールを紹介します。

時代の転換期であることをメディアは伝えている。自分も常々変わりたいと思っていた。新聞記事や掲載されている教育関係の本の広告で気になる言葉があった。それは、「ポートフォリオ」。とても気に入った。本屋さんで探してみた。ない。ますます気に入りだした。インターネットで注文して読んでみた。今、自分が変わるにはこれしかないと思った。こんな気持ちになったのは初めてだ。

「えっ、なぜ変わりたいと思ったかって、それはですね、これだけ世の中が変化している中で、子ども達の未来のために、自分も学校も変わっていかなくちゃあとと思っていたからですよ。そこのところが一致したのがこの本（ポートフォリオで評価革命）だったというわけです。」

本の表紙にホームページのアドレスが印刷してあったので覗いてみた。夏休み中、「霧島でセミナー開催、申し込みはここから」とあった。「行ってみたい。」と思った。本を読み返すたびに、「行ってみたい」から「行きたい」という気持ちになってきた。

ということで行って来ました。それは無性にその本の著者に会いたくなったからでした。その人は鈴木敏恵さん。未来教育を提言している人。自分の経験（夢の表現）をもとに先生達を通し、未来を生きる子ども達に、21世紀に必要な力をつけることで、人の役に立ちたいという夢をもつ人です。その21世紀に必要な力をつけるのが「ポートフォリオ」。夢をもった人は前向きに行動し、可能性を探る。周りを元気にする。周りの人に希望を与える。自分も夢をもち、子ども達を元気にし、そして希望を与えられる人になれると実感し

ました。

前述の「霧島セミナー」の実行委員長を昨年夏務めました。また記述のホームページの作成もしています。インターネットやネットワークに関わることで、貴重な体験と大切な出会いが重なっています。喜怒哀楽の日々を綴っていきます。

今度は「川内市地域情報化セミナー」での講演原稿を中心に紹介します。主催者は「総務省九州総合通信局、川内市、九州テレコム振興センター」です。

次は私の講演で配布した原稿の一部です。

◆「学校インターネットとIT教育について」

志學館ネットワーク管理者

梶原末廣（インターネット編集長）

kanoyu@po.synapse.ne.jp

1. はじめに

コンピュータリテラシー教育として1992年からの学習指導要領改訂において、小学校からコンピュータが導入された。中学校では技術家庭の中に「情報基礎」が設けられた。この時期に各学校にコンピュータ教室が設置されはじめた。

2002年4月からの「新学習指導要領」、中学校の「技術家庭」で「情報基礎」は必修となる。2003年から高等学校では新たに普通科にも「情報」（必修）がスタートする。

1992年から10年の期間を経て「情報教育」が大幅に変化する。

◆参考URL (1) <http://www.mext.go.jp/>

(文部科学省)

2. インターネットや情報教育の現状（世界&日本）

日本の学校の「コンピュータ普及率」は100%である。コンピュータが操作できる教師は全国平均では(66.1)%, 鹿児島県は(62.0)%である。また、コンピュータが指導できる教師は全国平均では(31.8)%, 鹿児島県は(32.1)%である。

日本以外の先進国は情報インフラ整備の段階で必ず、情報化推進コーディネーター（教育情報化）を派遣している。ネットワークの管理が学校や地域の未来を握っている。

◆参考URL (2) <http://www.japet.or.jp/>
(JAPET社団法人日本教育工学振興会)

3. 校内LANの整備急務

どこの教室からでも、ネットワークへのアクセスを可能にすることが急務である。学校の入り口まで、また道路脇の電信柱まで来ている光ファイバーケーブルの導入を、早急にすすめること。

「ネットデイ」を活用するのも有効手段である。

ネットデイとは、生徒一人ひとりが情報ネットワークにアクセスできる環境を提供することを目的として、ボランティアが学校のインターネット接続をお手伝いするイベントである。イベントの準備などのコラボレーション（協働作業）を通じて、学校現場と地域ボランティアの連携が生まれ、産学公民が参画するボランティア同士の連帯感も創出する。

◆参考URL (3) <http://www.netday.gr.jp/>
(ネットデイ for 未来：文部科学省)

4. 国際TV会議 (G-project) の実施

米国ワイオミング州の高校生と志學館中等部・高等部の学生間の「NetMeeting」活用のTV会議の全過程を紹介する。

◆参考URL (4) <http://www.synapse.ne.jp/~kanoyu/kokugo/>
(国語情報学の一部：G-project)

◆参考URL (5) I*EARNJapanの活用 (テレクラス)
<http://jearn.kyushu-id.ac.jp/>

I*EARN (International Education and Resource Network) は、「アイアーン」と呼ばれ、世界93カ国約4000校以上の教育ネットワークを誇り、インターネットをはじめとするテレコミュニケーション手段を最大限に活用することで、国際間交流学習を成功させている、世界でも信用の高い教育の非営利組織。

◆ 参考URL (6)

月刊誌「社会教育」へ成果発表
<http://www.syakaikyokuiku.gr.jp/>
(社会教育団体振興協議会)

5. 人間は会うことから始まる

インターネットやネットワークが整備され、一般化されることで、ますます人が直接出会うことの必要性を痛感する。一步に偏する生活は、戒めねばならない。バランス感覚が大切である。

IT教育は、小学生よりも中学生に、またそれ以上に高校生に必要である。現状は逆となっている。まず何よりも教師自身が、そのスキルを身につけることが必要である。今までの経験値からの判断や指導は、危ういものとなる。

会社では「社長」が、学校では「校長」が、まずはITを活用できることが日本の未来を左右する。大きな革命が進行していることを大人自身が自覚すべきである。

身近に地域の情報化を進展させるために下記の提案をする。

- ・茶話会からはじめよう！
- ・メールマガジン (MM) を読もう！
- ・メーリングリスト (ML) に参加しよう！
- ・ナレッジマネジメントを学習しよう！
- ・IT環境を活用しよう！
- ・「現代教育新聞」などの購読をしよう！

◆参考URL (7)

<http://www.schoolnet.gr.jp/index.html>
(学校インターネット)

6. 終わりに

総合的な学習にこそ「プロジェクト学習／ポートフォリオ活用」が有効である。私の「ポートフォリオ」との出会いや実践を紹介。コンピュータやネットワークをプロジェクト志向で使おう。

ビジョン：夢>「学校をもっとよくしよう」

ミッション：意志>「子どもたちに輝かしい未来を約束したい」

ゴール：(具体的に)>「インターネットやコンピュータを使おう」

講演を終えて

この1年私の生活は急変してきている。いちばん大きな要因は間違いなく「インターネット」である。教師であるから、普段の授業や各種事務処理から会合まで、多くの業務を果たしている。が、それ以外に「メールマガジンの編集・発行」, 「ネットワーク管理者」としての業務, 各種研究会の開催などから、今回のような講演者としての活動等々である, 「学校インターネットとIT教育」の推進役を果たすことが目下の課題（使命）といえる。

一人の社会人として有用な人間になりたい。

3. 終わりに

天空に扉があらわれ、そこを開けば、別の世界が広がる。扉の向こうに足を踏み入れると、背後の世界はいつの間にか消え失せてしまう。そうやって、背中合わせの20世紀を置き去りにしたのかもしれない。これから20世紀は、急速に遠ざかっていくのだろうか。

路傍に敷き詰められた無告の落ち葉たちは、そのままアスファルトの上で色褪せ干からびていくのか。そして再び、あり合わせの言葉でこの新世紀を語りはじめていくのだろうか。（郁雄）

友人のことばで、このレポートを終えます。まだまだ熟していないものどもを発信することは、内心忸怩たる思いですが、多くの方々のご叱責を賜れば幸いです。

◎志學館中等部・高等部

<http://www.jkajyo.ac.jp/sgn.html>

◎未来教育プロジェクト

<http://www.jkajyo.ac.jp/miraie21.html>

◎国語情報学教室

<http://www.synapse.ne.jp/~kanoyu/kokujiyo/index.html>

参 考

(1) メールマガジンの編集・発行

<例1>

【中・高校教師用ニュースマガジン】(中高MM) 第231号

6月9日・土曜日発行

編集・発行 梶原末廣

sukaji@po.synapse.ne.jp

<http://www.synapse.ne.jp/~kanoyu/sukaji/index.html>

【発行部数1478名】(6/14現在)

<例2>

☆『鈴木敏恵の未来教育インフォメーション』第191号☆

6月7日・木曜日発行

発行者: 鈴木敏恵 編集者: 梶原末廣

suzukimm@ma3.justnet.ne.jp

<http://www.suzukitoshie.net/miraiinfo.html>

【農業高校の先生方への講演記録/連載-3】

花開く, 新しい学校

~未来への種を植えているあなたへ~

鈴木敏恵

<http://www02.so-net.ne.jp/~s-toshie/>

(2) ホームページの作成く代表的なもの>

HomePage <http://www.jkajyo.ac.jp/sgn.html>

(志學館中等部・高等部)

HomePage <http://www.suzukitoshie.net/2001/index.html>

(鈴木敏恵/未来教育ナレッジ全集 2001)

(総合的な学習&進路指導&ポートフォリオ&

プロジェクト学習)

HomePage <http://www.suzukitoshie.net/index.html>

(鈴木敏恵のヴァーチャルオフィス)